

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局本部

目 次

〈理事会報告 (2015 年 7 月 3 日)〉

- I. 総会議事について
- II. 各種委員会の 2014 年度活動報告および 2015 年度活動計画について
- III. 30 周年記念事業の準備について
- IV. 次期大会開催校について
- V. 事務局報告

〈総会報告 (2015 年 7 月 5 日)〉

- I. 会則の一部改正について
- II. 第 25 回大会年度(2014 年度)活動報告
- III. 第 26 回大会年度(2015 年度)活動方針
- IV. 第 27 回大会(2016 年度)開催校について

〈学会誌第 25 号論文原稿募集〉

〈「秋のセミナー2015」のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2015 年 3 月 8 日)

定例理事会が 7 月 3 日 (金) 15 時 00 分から 17 時 00 分まで、昭和女子大学学園本部館中会議室 1・2 にて開催されました。事務局 2 名を含む理事 19 名が出席し、長尾代表理事の挨拶に続いて以下の議事を審議し決定しました。

I. 総会議事について

松下事務局長より【資料 1 (「第 26 回大会総会 議事次第 (案)」)】に基づいて審議が行われた。

1. 会則の改訂について

「総会資料 1」に基づいて、前回理事会にて議決された会則の改正について (第 4 条：委員会規定の追加)、長尾代表理事と松下事務局長より説明がなされた。事務局案に対して、第 3 条と第 4 条を第 1 章から第 4 章へ移動させることが決定された。総会においては、議題 (「会則の一部改正について」) として会員の承認を求めることが承認された。

2. 2014年度決算報告・監査報告

「総会資料2」に基づいて、松下事務局長より決算報告・監査報告が行われた。監査では各種委員会の予算額と決算額の開きが大きいため、今後は委員会の活動計画に基づき予算配分をすることとした。大会会計については、大会会場校が行っていたためこれまでは収入・支出ともに「予算0」としていたが、次回以降は、前年度実績に基づいて予算化することとした。

3. 第26回大会年度（2015年度）活動方針案

(1) 一般方針

「秋のセミナー」と第7回研究集会が開催されることが確認された。

(2) 2015年度予算案

「総会資料3」に基づいて松下事務局長より説明がなされた。支出の部に「次年度繰越金」があることに疑義が出されたが、今年度までは従来通りの方針で予算案を提出し、この件については今後検討することが承認された。各種委員会および事務局経費の予算を昨年度までより減額した点、事務局外部委託費が増額となった点が説明され承認された。

4. 第27回大会（2016年度）開催校

第27回大会（2016年度）開催校について、香川大学教育学部附属高松小学校（黒田理事）より、開催校は香川大学・香川大学教育学部附属高松小学校であること、日程（2016年7月2日・3日）が予定されていることが報告された。

Ⅱ. 各種委員会の2014年度活動報告および2015年度活動計画について

1. 紀要編集委員会

橋本委員長より【資料2】に基づいて活動報告・活動計画について説明された。紀要の査読基準について検討中であることが説明された。査読者に査読の観点を提示し、それに対する意見をいただき参考とする方向で検討している旨が報告された。紀要の充実に関わり、天笠研究・広報委員会委員長より、紀要において課題研究を踏まえた特集または論文の掲載等について検討中であることが報告された。

2. 国際交流委員会

子安理事より、【資料3】に基づいて活動報告・活動方針について説明された。

3. 研究・広報委員会

天笠委員長より、【資料4】に基づいて活動報告・活動方針について説明された。第27回大会においては、課題研究は4部会設ける方向で検討を進めていること、課題研究間での相互交流が検討事項であることが報告された。「秋のセミナー」について新聞社・教育雑誌、教育

委員会等への広報、学会ホームページへの掲載、ニューズレターへの掲載などで広報に努めることが確認された。

4. 研究奨励賞審査委員会

橋本委員長より、今年度は審査対象（推薦）がなかった点が報告され、次年度の推薦を依頼された。松下事務局長より、学会への寄贈図書のうち博士論文が書籍化されたものがあれば、それを事務局から参考資料として提出することが提案された。

Ⅲ. 30周年記念事業の準備について

長尾代表理事より、研究・広報委員会および国際交流委員会によって記念事業の内容の検討を進め、次回理事会を目途に、新たに記念事業実施委員会等の発足について検討することが提案された。事業を行う際は、学会の活性化の契機となる事業をめざすことが提案された。

Ⅳ. 次期大会開催校について

I-4で記載したように、香川大学・香川大学教育学部附属高松小学校（2016年7月2日・3日予定）で開催されることになった。

Ⅴ. 事務局報告

1. 会員現況報告

会員総数 689名（一般会員600名、学生会員82名、団体会員7件）

※連絡先不明者5名、会員一時資格停止者32名を含む。

注：昨年同時期は、会員総数696名（一般会員603名、学生会員85名、団体会員8件）

・新規入会者（2015年2月28日～6月19日）22名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2015/3/3	橋本 直賢	早稲田大学大学院 教育学研究科	学生	水原克敏
2	2015/3/26	水上 丈実	北海道教育大学旭川校	一般	藤川聡
3	2015/4/1	原田 三朗	※所属非公開希望	一般	事務局
4	2015/4/1	萩原 真美	お茶の水女子大学大学院	学生	富士原紀絵
5	2015/4/1	石山 亜子	茨城県立荃崎高等学校	一般	田中統治
6	2015/4/6	劉 妍	東京外国語大学	学生	事務局
7	2015/4/15	宮野 尚	東京学芸大学大学院	学生	橋本美保
8	2015/4/17	望月 実	※所属非公開希望	一般	事務局
9	2015/4/17	金 鍾成	広島大学	学生	草原和博

10	2015/4/17	宮田 美恵子	※所属非公開希望	学生	富士原紀絵
11	2015/4/20	東風 安生	早稲田実業学校	一般	押谷 由夫
12	2015/4/28	山森 光陽	国立教育政策研究所	一般	黒田 拓志
13	2015/4/28	村井 大介	筑波大学	学生	根津朋実
14	2015/5/7	岡 博美	常葉大学教職大学院	学生	安藤雅之
15	2015/5/14	鎌田 明美	鳴門教育大学	学生	村川雅弘
16	2015/5/22	下岡 有希子	文部科学省	一般	事務局
17	2015/5/26	石塚 等	国立教育政策研究所	一般	吉富芳正
18	2015/5/27	高木 亮	就実大学	一般	事務局
19	2015/6/3	上杉 賢士	いっづな学園グリーン・ヒルズ小／中学校	一般	市川洋子
20	2015/6/8	井原 淑雅	藤ノ花女子高等学校	一般	事務局
21	2015/6/17	原口 るみ	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科	一般	平野朝久
22	2015/6/17	徳永 武史	鴨川市立天津小学校	学生	天笠 茂

・退会者(2015年2月28日～6月22日)

	氏名	所属	区分
1	坂本 徳雄	国土館大学大学院	学生
2	麻生 千明	足利工業大学	一般
3	天野 正輝	京都大学名誉教授	一般
4	木下 繁彌	甲子園短期大学学長 大阪教育大学名誉教授	一般
5	小池 俊夫	成蹊大学	一般
6	河原 尚武	近畿大学	一般
7	木村 和夫	豊橋創造大学	一般
8	高野 保夫	国立大学法人・福島大学／人間発達文化学類	一般
9	河野 智文	福岡教育大学国語教育講座	一般
10	山田 芳明	鳴門教育大学	一般
11	藤瀬 泰司	熊本大学教育学部	一般
12	遠藤 好子	新潟県上越市立雄志中学校	一般
13	赤堀 侃司	白鷗大学教育学部	一般
14	近藤 茂明	愛知県知多郡東浦町立片葩小学校	一般
15	鈴木 裕之	東北大学大学院教育学研究科	学生
16	高浦 勝義	明星大学人文学部心理・教育学科	一般
17	有園 格	星槎大学共生科学部教授	一般
18	Dy.Yoshiko NOZAKI	Dept of Educational Leadership and Policy, University at Buffalo	一般
19	津田 正之	国立教育政策研究所	一般
20	塩島 学	※所属非公開希望	一般

21	橋本 康弘	福井大学教育地域科学部社会系教育講座	一般
22	英進館(株) (筒井勝美)	英進館(株)	団体
23	増田 健太郎	九州大学	一般
24	島 善信	大阪教育大学 教職教育研究開発センター	一般
25	鬼木 英幸	湯沢町立神立小学校	一般
26	西田 尚美	兵庫県立図書館	一般
27	方 明生	上海師範大学教育学院	一般
28	孟 蘭芳	北陸先端科学技術大学大学院	学生
29	江口 千穂	東京都教職員研修センター研修部教育開発課	一般
30	JP Jamieson	佐賀大学	学生
31	福田 吉高		学生
32	門田 理世	西南学院大学	一般
33	Christine D.Kuramoto	九州大学大学院医学研究院 九州大学医学部	一般
34	Andrew Meyerhoff	佐賀大学	一般
35	Terry Fellner	佐賀大学	一般
36	神谷 キヨ子	神戸女子大学 大学院	学生

毎年 10 人程度減少傾向にあることが松下事務局長より報告され、原因について議論された。

2. 寄贈図書一覧

(詳細は、「事務局からのお知らせ」を参照)

3. 会計監査について

6月14日(日)に、会計処理を委託している国際文献社において、事務局の富士原紀絵幹事、松下佳代事務局長 (Skype 参加) の立ち会いの下、監事の吉富芳正会員、関根明伸会員によって監査が行われ、帳簿帳票との照合によって、会計上の処理が適正に行われていることが確認された。なお、大会収入・支出を予算に計上すべきこと、ならびに、各委員会の予算額と決算額の差が小さくなるようにすべきことが指摘され、次年度の予算案の作成において考慮されることとなった。

総会報告（2015年7月5日）

2015年7月5日（日）、12時20分から13時30分まで、昭和女子大学西棟コスモスホールにおいて、押谷由夫会員（昭和女子大学）、北林雅洋先生（香川大学教育学部附属高松小学校長、香川大学教育学部教授）を議長団として、総会が開催された。これにおいて、7月3日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

I. 会則の一部改正について

【総会資料1】

会則の一部改正について

第1章 総則

第1条 本会は「日本カリキュラム学会（The Japanese Society for Curriculum Studies）」と称する。

第2条 本会は会員相互の研究交流と協力を促進し、カリキュラムの理論と実践に関する学術的、国際比較的、総合的研究の発展と、それによる日本の教育の振興に資することを目的とする。

第2章 事業

第34条 本会は第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 年次大会その他の研究集会の開催
- (2) 機関誌および会報の発行
- (3) 研究成果、研究資料、文献目録、その他の刊行
- (4) 国内、国外の他の研究団体との連絡・連携
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業（学会賞など）

第3章 会員

第45条 本会の会員は、正会員、学生会員、団体会員とする。

第56条 本会の会員は、本会の目的に賛同し、カリキュラム研究に関心を持つ者によって組織する。

第67条 本会の会員は研究集会に参加し、機関誌その他の刊行物においてその研究を発表することができる。

第78条 本会の会員となるには、会員1名の推薦により入会金2,000円を添えて申し込むものとする。

- 2 会員は退会届を提出して退会することができる。

第 ~~89~~ 条 本会の会員は次の会費を納入するものとする。

- (1) 正会員 年額 8,000 円
- (2) 学生会員 年額 5,000 円
- (3) 団体会員 年額 10,000 円

2 会費の納入を怠った場合は、会員としての資格を失うことがある。

第 ~~94~~ 条 団体会員は正会員と同じ資格を与えられる。

第 4 章 組織及び運営

第 ~~104~~ 条 本会に次の役員を置く。

- 代表理事 1 名
- 理事 (うち常任理事若干名)
 - 選挙による者 25 名
 - 推薦による者 若干名
- 幹事 若干名 (うち事務局長 1 名)

監査 2 名

顧問 若干名

第 ~~112~~ 条 代表理事の選出は当選理事の選挙による。

- 2 理事は会員のうちから選出し、理事会を構成する。
- 3 常任理事は理事の互選により決定し、常任理事会を構成する。
- 4 幹事は理事会の承認を得て代表理事が委嘱する。
- 5 監査は総会において選出する。
- 6 顧問は理事会の承認を得て代表理事が委嘱する。

第 ~~123~~ 条 代表理事は本会を代表し、諸会議を召集する。

- 2 代表理事は 70 歳を定年とし、また事故あるときは常任理事のうち 1 名がこれに代わる。
- 3 理事会は本会運営上の重要事項を審議する。
- 4 常任理事会は本会の運営、会務の処理にあたる。
- 5 幹事は庶務及び会計を分掌し、代表理事がこれを統括する。
- 6 監査は本会の会計を監査する。
- 7 顧問は本会の必要に応じ相談を受ける。

第 ~~134~~ 条 各役員の任期は 3 年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 幹事の任期は、委嘱者である代表理事に一任する。

第 ~~145~~ 条 総会は本会の事業及び運営に関する重要事項を審議し、決定する最高の議決機関である。

- 2 総会は毎年 1 回これを開く。

第 15 条 本会の運営を円滑に行うために、委員会を置くことができる。

2 各委員会には、理事の互選により、委員長及び副委員長を置く。

第 ~~163~~ 条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局は理事会の承認を得て、代表理事が定める。

第5章 会計

第 ~~1716~~ 条 本会の経費は会費，入会金，寄付金，その他の収入をもってこれに充てる。

第 ~~1817~~ 条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。

附則

1. 本会は会則の改正は総会の決議による。
2. 本会則は1990年12月15日から発効する。

会則改正

1. 第11条，第14条，第17条は1992年7月12日改正発効。
2. 第9条1項(1)及び(2)は1994年7月3日改正，1995年4月1日発効。
3. 第9条1項(1)は1997年6月29日改正，1998年4月1日発効。
4. 第14条2項，3項は1998年7月5日改正発効。
5. 第11条，第12条1項，第14条1項及び2項は2007年7月8日改正発効。
6. 第9条1項(1)及び(2)は2011年7月17日改正，2012年4月1日発効。
7. 第15条，第16条は2015年7月5日改正発効。

II. 第25回大会年度(2014年度)活動報告

(1)一般活動報告

①現況概要(2015年6月22日現在)

会員総数 689名 (一般会員 600名、学生会員 82名、団体会員 7件)

*うち、会員資格停止者 32名、連絡先不明 5名を含む

会費納入状況 2014年度分の納入率 92.8%(昨年度 87.9%、一昨年度 95.5%)

②第25回大会報告 参加者 233名。会報第66号にて既報。

③学会誌『カリキュラム研究』第24号発行

④会報第65・66・67号発行

⑤学会研究奨励賞選考結果 該当者なし

⑥会員勧誘の結果(2014年度内)

新入会員 29名(参考:昨年度 18名、一昨年度 42名)

⑦第6回研究集会の開催

日時:2015年3月28日(土) 場所:京都光華女子大学

発表者:木村裕(滋賀県立大学)「オーストラリアのグローバル教育の理論と実践」

長者美里(京都光華中学校・高等学校)「高等学校普通科における特別支援教育プログラムとその条件整備—京都光華高等学校の場合—」

⑧その他

2015年6月14日

日本カリキュラム学会
第25回大会年度(2014年度)決算報告書
(2014年4月1日～2015年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
学会年会費	4,794,100	4,799,000
入会金	40,000	58,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	45,145
第25回大会収入	0	1,532,500
寄付	0	0
前年度繰越金	4,442,614	4,442,614
合計	9,306,714	10,877,259

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
第25回大会補助費	650,000	650,000
第25回大会支出	0	1,532,500
第23号紀要発送費	70,000	107,542
第24号紀要刊行費(含む発送費)	550,000	384,102
学会研究奨励賞費	50,000	50,000
会合費(含む交通費)	900,000	814,852
事務局経費	300,000	41,034
事務局外部委託費	1,200,000	1,083,614
ホームページ委託運用費	130,000	129,600
理事選挙・代表理事選挙準備費	300,000	254,311
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	94,016
広報委員会	200,000	31,248
国際交流委員会	200,000	10,000
研究委員会	200,000	125,000
学会奨励賞審査委員会	150,000	0
(小計)	1,050,000	260,264
予備費	200,000	0
次年度繰越金	3,846,714	5,509,440
合計	9,306,714	10,877,259

Ⅲ. 第 26 回大会年度(2015 年度)活動方針

(1)一般方針

- ①年次大会(第 26 回大会)の実施
- ②第 27 回大会の準備
- ③学会誌『カリキュラム研究』第 25 号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤「秋のセミナー2015」の開催

日時:2015 年 10 月 25 日(日) 13 時 30 分~16 時 30 分

場所:お茶の水女子大学理学部 3 号館・701 教室

テーマ:「アクティブ・ラーニングを考える」

発表校:新宿区立大久保小学校、埼玉県戸田市立笹目中学校、岩手県立盛岡第三高等学校

- ⑥第 7 回研究集会の開催
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨30 周年記念事業の準備
- ⑩その他

(2)2015 年度予算案

第26回大会年度(2015年度)予算案(2015年4月1日~2016年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	4,504,500	会費納入率90%で積算
入会金	40,000	20名見込み
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	
第26回大会収入(除く補助費)	1,500,000	第25回大会実績にもとづく
寄付	0	
前年度繰越金	5,509,440	
合計	11,583,940	

* 赤囲みの部分は、総会時の指摘を受けて修正を行った部分である。

支出の部

項目	予算額(円)	備考
第26回大会補助費	650,000	執行済
第26回大会支出(除く補助費)	1,500,000	第25回大会実績にもとづく
第25号紀要刊行費(含む発送費)	450,000	
学会研究奨励賞費	0	2015年度は受賞者なし
会合費(含む交通費)	900,000	
事務局経費	150,000	
事務局外部委託費	1,500,000	33万円値上げ(試算)
ホームページ委託運用費	150,000	
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	執行済
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	
国際交流委員会	150,000	
研究・広報委員会	300,000	
研究奨励賞審査委員会	150,000	正しい名称に変更
(小計)	900,000	
予備費	200,000	
次年度繰越金	5,123,940	
合計	11,583,940	

IV. 第 27 回大会(2016 年度)開催校について

場所：香川大学・香川大学教育学部附属高松小学校

日時：2016年7月2日(土)・3日(日)

第 26 回大会報告

皆様方にご協力いただき、日本カリキュラム学会第 26 回大会が盛会裏に終えられましたことに心より感謝申し上げます。「特別の教科 道徳」の設置を中心とする学習指導要領の一部改正の告示の直後であり、また次期学習指導要領の全面改訂をはじめとして、戦後最大というべき大きな教育改革について審議されている最中に、本学で全国大会を挙行できましたことを誠に光栄に存じます。大会には、255 名の方々が参会してくださいました（公開シンポジウムのみへの参加者を含めると 300 名を超えます）。自由研究発表、課題研究、公開シンポジウム、懇親会と、全体にわたって非常に活発な意見交換と研究交流が繰り広げられ、実行委員会一同、大変嬉しく思っています。

自由研究発表は、48 件で 14 部会に分かれて発表いただきました。各部会 3～4 件の発表となり、

どの部会も熱心な議論が展開されました。課題研究は、いずれも教育改革に関する今日的なテーマが扱われました。課題研究Ⅰは「『資質・能力』の育成をどう考えるか」(コーディネーター：村川雅弘・浅沼茂・藤川聡・西岡加名恵)、課題研究Ⅱは「現代社会における教科成立の根拠を問う」(コーディネーター：中野和光・的場正美)、および、課題研究Ⅲでは「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題—教育課程基準に関する中央教育審議会の審議過程を中心として—」(コーディネーター：小泉祥一・石田有記)と題して、提案者による発表がなされ、指定討論やフロアとのやりとりを通じて、それぞれのテーマに対する議論が深められました。また、公開シンポジウムでは「特別の教科 道徳」の設置で道徳教育や教育課程がどう変わるのか」をテーマに、賛否両論が飛び交う学会ならではの活発な議論が展開されました。本大会が我が国の教育課程の研究・実践に少しでも貢献できたならば幸いです。また、議論されたことが次回大会以降に引き継がれ、より実り多きものになることをお祈り申し上げます。

大会運営において至らないところが多々ありご迷惑をおかけしたかと思いますが、おかげさまで無事に終わることができました。ひとえに皆様のご理解とご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。また、大会を支えてくださった大会実行委員の方々、手伝ってくれた約 40 名の研修生・学生の皆さん、その他ご支援を賜った全ての方々に心より御礼申し上げます。

(昭和女子大学・押谷由夫)

学会誌第 25 号論文原稿募集

投稿締め切りは 9 月 30 日(当日消印有効)です。投稿要領、投稿に関する諸注意は紀要 23 号 [投稿にあたっての注意]と[投稿要領](ホームページに掲載)をご覧ください。

送付先：〒305-0006 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学人間系(教育)気付

日本カリキュラム学会 紀要編集委員会事務局

会員皆様のご積極的なご投稿をお待ちしております。

「秋のセミナー2015」のご案内

平成 27 年 7 月

日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2015」のご案内

「アクティブ・ラーニングを考える」

日本カリキュラム学会代表理事：長尾彰夫
同学会研究・広報委員会委員長：天笠 茂

平成 26 年 11 月の次期学習指導要領改訂への諮問を受け、全国の各教育委員会ならびに各学校現場においては、特に「アクティブ・ラーニング」が注目され、各地において模索的な実践が展開され始めています。日本カリキュラム学会でも今年 7 月の全国大会でこの課題を取り上げの論議を行いました。教育現場のニーズに対応すべく、以下のセミナーを開催します。

小・中・高 3 校の先進校による事例発表を受け、アクティブ・ラーニングの理論的推進者及び教育委員会や学校研究の指導者である研究者を交え、アクティブ・ラーニング登場の背景、意義、具体的な方法などについて協議を行います。

日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、学会員にかかわらず、全ての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開いたします。お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

開催日時：平成 27 年 10 月 25 日（日） 13 時 30 分～16 時 30 分（受付 13 時～）

開催場所：お茶の水女子大学理学部 3 号館・701 教室

【最寄り駅は東京メトロ丸の内線の茗荷谷駅です。正門からお入り下さい。】

参加費用：無料（事前申込みの必要はありません）

事例発表：東京都新宿区立大久保小学校（三田大樹主幹教諭）

埼玉県戸田市立笹目中学校（戸ヶ崎勤戸田市教育長）

岩手県立盛岡第三高等学校（下町壽男岩手県立大野高校学校長）

指定討論：松下 佳代（京都大学教授）

村川 雅弘（鳴門教育大学教授）

司会進行：西岡加名恵（京都大学准教授）

野口 徹（山形大学准教授）

事務局からのお知らせ

1. 寄贈図書一覧 (2015年2月28日～2015年6月19日到着分)

	著者名	タイトル	出版社	発行日	受領日
1	20周年記念リーディングス編集委員会(編)	福祉教育・ボランティア学習の新機軸	大学図書出版	2014/10/20	2015/3/9
2	松尾知明	21世紀型スキルとは何かーコンピテンシーに基づく教育改革の国際比較	明石書店	2015/2/25	2015/3/25
3	勝野正章・庄井良信	問いからはじめる教育学	有斐閣	2015/2/25	2015/3/25
4	森本洋介	メディア・リテラシー教育における「批判的」な思考力の育成	東信堂	2015/2/25	2015/4/6
5	川越有見子	栄養教諭養成におけるカリキュラム開発研究	風間書房	2015/2/20	2015/4/9
6	西岡加名恵・石井英真・田中耕治	新しい教育評価入門ー人を育てる評価のためにー	有斐閣	2015/4/1	2015/4/23
7	師岡 章	保育カリキュラム総論ー実践に連動した計画・評価のあり方、進め方	同文書院	2015/4/20	2015/6/19
8	西村公孝	社会形成力育成カリキュラムの研究	東信堂	2015/1/30	2015/6/22

2. 平成27年度(2015年度)分 会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の方は、納入をお願いします。8月24日時点での**2015年度会費の納入率は72.6%**です。納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代気付

日本カリキュラム学会事務局本部

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>